

ART 出生児における乳幼児発達スケールを用いた予後調査

玉田 いつみ¹、中野 達也¹、佐藤 学¹、中岡 義晴¹、森本 義晴²

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

高度生殖補助医療（ART）による出生児が増加し、予後調査の重要性が高まっている。凍結融解胚移植での出生時体重は新鮮胚移植に比べ重いと報告されているが、その後の乳幼児の発達については詳しく検討がされていない。そこで今回は、1 歳半と 3 歳、6 歳において ART、non-ART 間で発達や発育の違いを検討した。

【方法】

2014 年以降当クリニックで単胎妊娠後分娩し、アンケート協力に同意を得た夫婦（1 歳半：752 組、3 歳：310 組、6 歳：62 組）を対象とした。発達の指標として KIDS スケール得点を用い、それぞれの年齢における、体重、身長、発達指数（運動、操作、理解言語、表出言語、概念、対子ども社会性、対成人社会性、しつけ、食事（1 歳半のみ）、総合）を ART と non-ART（検討 1）、および凍結融解胚移植と新鮮胚移植（検討 2）について検討した。

【結果】

検討 1

ART と non-ART で比較すると、出生時体重に差はなかった（3048.1 g vs. 3057.5 g）。また、1 歳半、3 歳、6 歳の時点でも体重、身長ともに差は認められなかった。さらに、KIDS スケール得点の各項目における得点に差はなく、総合発達指数にも差はなかった。

検討 2

凍結胚移植と新鮮胚移植で比較すると、出生時体重に差はなかった（3042.0 g vs. 3049.1 g）。1 歳半、3 歳、6 歳における各項目では、6 歳児における運動発達指数のみ、凍結胚移植の児が高い値を示した（87.9 vs. 74.4、 $p<0.05$ ）が、他の項目では差はみられなかった。

【考察】

本調査の結果、6 歳児における運動発達指数のみ凍結融解胚移植と新鮮胚移植で差が見られたが、検討数が少ないことや社会的背景の要因が大きいと考えられる。そのため、児の発達には ART および ART 関連技術が与える影響は今回検討した年齢の時点ではみられなかった。このことは ART の安全性の指標の一つとなる事が示された。